

現場レポート

小諸高等学校を訪ねて ～初任者研修 研究授業～

■研究授業

朝9時、緊張感が漂う中、初任者研修である国語科研究授業が始まりました。

授業者は、採用1年目。

筆者が授業を本格的に見るのは、自分が高校生時代に授業を受けて以来、実に15年ぶり。

教材は、芥川龍之介の「羅生門」。

筆者が高校生のときも学んだ教材だなあと、何とも言えない懐かしさを覚えました。

先生が、前回の授業を振り返り、「もしあなたが下人の立場だったら、『手段を選ぶ(飢え死に)』か『選ばない(盗人)』か。」と生徒に問いかけます。

生徒はそれぞれ自分の考えを発表します。様々な意見が出てきます。

先生は、難解な言葉の説明や自分のエピソードも織り交ぜつつ、文章を丁寧に読み解きながら、生徒の発表内容を咀嚼し、生徒に言葉を返します。

何気ないやり取りですが、授業は先生と生徒のキヤッチボールであると改めて思った瞬間でした。



写真には写っていないが、後方では校長先生など約10人の先生方が授業を見学。生徒も普段よりは緊張気味？

■授業研究会

授業終了後、参観された先生方が授業者に対して、良かった点や改善点などをフィードバックする授業研究会が行われました。

まず、授業者が反省や感想を述べます。「生徒に對し小さな問いをいくつも出して、答えの根拠を探させるようにした。」「ある1つの答えを導き出すのに、進め方が回りくどくなってしまった。」「余談のタイミングと、本題に戻すタイミングが不自然だった。」「まとめの時間が十分に取れなかった。」など、素人である筆者から見れば「良かったなあ。」と思えた授業であっても、先生からすると多くの反省点があるようで、さすがは「教師」と感じました。

校長先生、教頭先生、事務長、他科目の先生、国語の先輩の先生などが研修者に助言。とても真剣な雰囲気。



参観された先生方からは、「生徒の発問をじっくり待つ『間』が良かった。」「生徒に読み聞かせる先生の朗読が非常に素晴らしかった。」「声が小さく他の生徒が聞きとれないような発表をしていた生徒もいたので、もう一度はつきり言わせるなどの対応をとってもよかったですのではないか。」などの意見が出されました。

このように、身近な先輩教師からの助言を糧に、授業改善など教師としての力量を高めていく、授業研究会は非常に有効な「研修」であると感じました。

■最後に

初任者である先生に、どんなときに教師としてのやりがいを感じるか尋ねたところ、「自分が生徒と関わることによって、何らかの形で生徒の成長が垣間見られたとき」という答えが返ってきました。

教師という仕事は、自分が関わることで生徒を成長させる、非常に夢のある仕事なのだと感じました。

時には難しい問題を抱え大変なこともあるかと思いますが、今後の大いなるご活躍を期待しています。

最後に、急なお願いにもかかわらず私の訪問をご快諾いただき、貴重な時間を割いて対応してくださった校長先生、教頭先生、事務長や諸先生方、本当にありがとうございました。

音楽科について

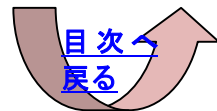
小諸高等学校には、県内で唯一の音楽科があります。

今回の訪問で、音楽科の施設や設備を見学させていただきましたが、まさに「素晴らしい！」の一言でした。

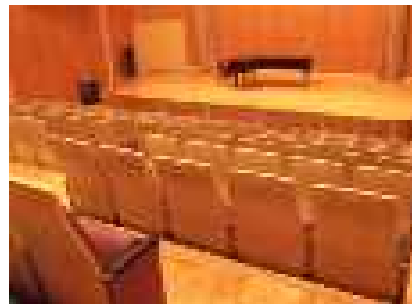
専門家（外部講師）による個人指導や、年に7回開催される校内演奏会や校外での定期演奏会など、音楽を志す生徒にとっては、カrippばい音楽を学べる環境が整っています。

卒業生は、プロの演奏家や中学・高校の音楽教諭など、様々な分野で活躍しています。

体験入学や学校開放なども実施していますので、興味のある生徒や保護者の皆さんは、ぜひ一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。



座席数158席の音楽ホール。年7回の校内演奏会のほか、公開レッスン、実技試験、合唱・合奏の授業や練習等で使用。



レッスン室。左が先生用、右が生徒用。7室ある。この他にも個人練習室26室など、とても充実した環境。

◆小諸高等学校ホームページ

<http://www.nagano-c.ed.jp/komorohs/>

■お問い合わせ
教育総務課
TEL : 026-235-7423
FAX : 026-235-7487
E-mail : kyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp